

この頃から、レコードを制作者側の気持ちで 聴く耳も培われたように思います。

というわけで私の高校生活後半は、九州と東京の往復の連続でした。ヤマハと聞くと楽器店のイメージですが、私の所属は「財団法人ヤマハ音楽振興会」というところで、当時は目黒と渋谷の2ヶ所がありました。目黒には宣伝やプロダクション、経理などの部門があり、渋谷にはレコーディングスタジオを併設したエピキュラスというビルがありました。そこに制作室があったので制作室預かりの私はここを基点にいました。今はもう無くなりましたがエピキュラス、懐かしいですね。

あの頃、都内にはいくつか素晴らしいレコーディングスタジオがあって、エピキュラスはその一つでした。ここから多くのヒット曲や名曲が生まれ、一流のスタジオにはそれ相応の人間が集まっていました。ここに入出りできる環境にあった私は、それだけでとっても刺激的でたくさんの交流も広がりました。この頃から、ダラダラ聴いていたレコードを制作者側の気持ちで聴く耳も培われたように思います。ユーミンが「ミスリ

ム」というアルバムを発表したのもこの頃。初めて聴いた時は「衝撃的」の一言。こんなにお洒落な音楽! その才能に思わずため息が出たのをいまも覚えています。

私には年の離れた姉がいて、彼女は団塊の世代の最後のほう。邦楽に加え洋楽にも詳しい世代なので、私はとても影響を受けました。遠い海の向こうのカッコイイ音楽やスターの歌う流行歌を聴く事も多かったし、フォークソングやグループサウンズはリアルタイムでした。でもユーミンの登場で日本の音楽シーンに新しい流れが始まったなと感じました。それぐらいユーミンの登場は輝いていました。私はこの頃、見たり聴いたり考えたりするだけの日々で、詞をとときどき書いては引き出しの奥、曲はたしか1つも書いてないと思います。けれど音楽って凄いと面白いとか大好き! っていうワクワク感に満ちていました。あつという間に1年半が過ぎ卒業式も終え「いざ上京!」と思いきや、私は三重県志摩市の合歓の郷に行くことに

なりました。ヤマハから合歓音楽院特待生として3~6か月間、勉強と作曲をするようにいわれました。特待生というのは、2~3年に1人位が選抜され、生活全般と音楽に関わる全てをサポートしてくれるシステムです。これはラッキーと思い、親に今後も援助は不要! と啖呵を切って合歓に向かいました。新幹線のホームで泣く母にもお構いなし、満面の笑顔で「行ってきま〜す」です。やったことのない剣道の上着を買い、ジャケット代わりに羽織って行きました。なぜって気分は道場破りだから。「音楽の世界よ! たのもお〜!」。



2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム「NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をリリース。ジャズファン、ジャズメン、オーディオファンから高く評価支持される